

求められる 社協の役割とは

社協役員の視点と責任

二戸市社協の最大の資産は 職員の「人間力」



二戸市社会福祉協議会
会長
山口 金男氏

昭和50年代は経営する会
社が二輪車から自動車
へ切り替える時期で、私の人
生が転換する時代です。当時
ホームヘルパーは家庭奉仕員
と呼ばれ、雪の多い地区だけ
に真冬でも積雪の中を自転
車やバイクで移動する姿に、
「気持ち形にしよう」と新
車1台、その後数台を寄贈。
それがきっかけで社協と関わ
りを持ち、介護保険事業が始
まる平成12年に会長に就任し
ました。

自動車販売業界は商品力、
提案力、迅速力が問われます。
一方、福祉業界はモノではな
く「人の心」を販売する業種
と認識しています。
人と関わる力、絆を形成す
る力、人の痛みに寄り添う力、
常に謙虚に学ぶ力で福祉ニ
ズと向き合う「人間力」こそ、
大事と考えています。

二戸市社協の最大の資産は
この「人間力」です。人間力
を高めるために職員が成長で
きる環境を整え、組織を活性
化させ、自己管理できる職場
にすることが、トップの責任
と捉えています。

組織を裏返すとコミュニ
ケーション力の活性化です。
様々な職員勉強会のほかに全
職員「30分面談」で、時代の
流れや方向性を共有し、悩み
を聞き希望を語り、アドバイ
スしながら、職員のモチベー
ションを高める工夫を続けて
います。会議や勉強会では必
ず役割を分担し、責任を持た
せ、常に問題や課題を後まわ
しにしないようにしています。

私は現場に出て地域ニーズ
をキャッチすることをモツ
トとし、点ではなく面での
地域連携が必要と考えていま
す。地域に出て収集した情報
を社協活動にいかすように心
掛けています。

迅速に地域福祉に対応でき
る社協でなければ活力ある社
協とはいえず、また存在価値
は薄れていきます。さらに
トップの役割は行政を巻き込
み、有力者に協力を求めるこ
とも役割の一つです。

毎年、県社協主催の「地域
福祉先進地視察」に参加し、
全国の先進的な地域福祉活動
にふれ、その仕組みづくりや
実践方法を学んでいます。ま
た、先ごろの勉強会ではNH
Kドラマ10で放送された「サ
イレント・プア」のモデルとなっ
た豊中市社協の勝部麗子氏を
お招きし、全職員の研修並び
に幹部職員と意見交換会を開
き、大きな活力を頂きました。

制度や事業に生命を吹き込む
介護保険事業の収益低下も
含めて、ここ5年ほどが社協
の変革期にあり、トップとし
て改革への力量が問われると
思っています。制度や事業に
生命を吹き込み、様々な仕組
みをつくるのが社協人の仕
事であり役割ですが、14年間
社協会長を務める中で感じる
のは、行政担当者は数年で部
署が変わってしまうことか
ら、行政や関係者と対等にわ
たりあえる職員の力量が求め

昨年の大雨災害時の支援体
制の反省を踏まえて、市内2
団体と災害時のボランティア
活動に関する協定を締結し、
災害支援に対応する体制を整
えました。社協と団体の協働
でボランティア層にも厚味が
増えています。目に見えるか
たちの社会貢献に携わりたい
方々は沢山います。一層社協
事業のPRが大切と考えてい
ます。

6月24日(1日目)
●【報告】 岩手県地域福祉支援計画と岩手
県社協活動計画が目指すもの〈講師〉岩手県
社会福祉協議会事務局次長 近藤嘉文
●【てい談】 二戸市社会福祉協議会会長
山口金男氏
金ヶ崎町社会福祉協議会会長 桑島正安氏
〈進行〉株式会社岩手互助センター相談役
加藤隆男氏
●【講義1】 介護保険制度改正のポイント
と市町村が取組む地域支援事業～地域住民の
生活課題の解決に向け市町村社協の取組み方
を考える～
●【講義2】 財政運営状況から見えてくる

市町村社協新任役員・幹部職員研修会(平成26年
6月24日～25日、ホテルルイズ)には、会長・副会長・
事務局長・理事など約30名が参加しました。
研修会では報告・てい談・講義・実践発表などを
通して「地域福祉を取り巻く現状と課題」「求めら
れる社協の役割」「地域住民の生活課題の解決に向
けた取組み」「地域福祉の推進を重視した新しい共
同募金」「財政運営状況から見える市町村社協の実
情」「既存事業の新たな事業の取組み」などについ
て考えました。
うち、てい談「求められる社協の役割とは」の概
要をお伝えします。



研修プログラム

市町村社協の役割 〈講師〉岩手県社会福祉
協議会総務部参事兼部長 宇土沢学

6月25日(2日目)
●【講義3】 地域福祉の推進を重視した新
しい共同募金を目指して〈講師〉岩手県共
同募金会事務局次長 星拓史
●【実践発表】 福祉課題の変化に応じた社
会福祉協議会事業の展開
～既存の事業と新たな事業の取組みから～
〈発表者〉二戸市社会福祉協議会事務局次長
小野寺幸司氏/いわて県央パーソナルサポ
ートセンター主任相談支援員 和山了
〈進行〉岩手県社会福祉協議会地域福祉企画
部参事兼部長 根田秋雄

運営から経営へ 迫られる社協意識の転換



金ヶ崎町社会福祉協議会
会長
桑島 正安氏

くり事業」を5年間展開しました。「ふれ愛 みとめ愛 ささえ愛 まなび愛」の「4愛精神」は、今も職員や福祉活動に携わる町民の心の支えとなっています。

地域福祉活動への思いが強かった私は、退職後、図書館長をしながら前社協会長から依頼されて理事を引受けたのが、社協との関わりの始まりです。

当社協では平成12年から国庫補助で「ふれあいのまちづくり事業」を5年間展開しました。「ふれ愛 みとめ愛 ささえ愛 まなび愛」の「4愛精神」は、今も職員や福祉活動に携わる町民の心の支えとなっています。

当時は女性職員が多く、利用者・町民に親愛の情をもって接し、その真摯な関わりと福祉への意気込みは、現在も脈々と継続されています。フットワークとチームワークの良さが社協の強みの一つです。

しかし、求められる社協人として力を果たすためには、地域の中に隠された生活課題

を敏感に察知できる感性を磨くことが大切です。それなくして誠心誠意、感謝の気持ちで福祉サービスを提供することも、子どもから高齢者まで暮らしやすいふれあいのまちづくりを推進することもできません。

行政からの補助は今までのように期待できない時代となり、社協は運営から経営へ意識を切り替える必要に迫られています。

経営感覚に切り替える

少子高齢化の進行、さらに生活困窮者への支援など、社会的サービスの需要増大と多様化は、ますます高まるばかりで、福祉関係者の出番は多くなっています。

平成10年に組織化された高齢者介護予防事業「ゆいっこハウス」は、町内47行政区のうち32行政区で実施し、会員

格差社会が進む中で 今こそ社協の出番



株式会社岩手互助センター
相談役
加藤 隆男氏

進の育成にも当たっています。

社協の大きな事業の一つは地域福祉活動の推進です。目指す社協の姿とは、地域福祉の要として住民の方々から頼りにされ、評価されることです。競争力でのぎをけずる民間企業との違いは、理念に掲げる目標や役割の高さがあげられる一方、年間の約3割が休日で、良し悪しは別として恵まれた職場環境にあるように思います。

私は長年、企業人の一人としてボランティア活動に携わり、現在は県ボランティア団体連絡協議会会長、NPO法人岩手ボランティア育成会理事長などを務め、後

専門性があっても人間的魅

力に乏しい組織には、人は集まってきません。急成長している企業のトップは、土・日も含めて社員以上に働き、仕事に精通し、結論が出ない会議は行いません。会議や研修会が終了した時から勝負が問われる競争社会です。

3つの力と捉えています。今後、複雑・深刻化する地域福祉を推進していく上で、住民自らがボランティアであり、一緒に手を組む大切なパートナーであるといった認識の転換が求められます。

総中流」から「格差社会」の流れに対応する重要な役割があげられます。今こそ社協の出番であると感じてください。

「格差社会」に対応する

地域福祉を推進する上でボランティアの必要性は高まっています。求められるのは「有用力」「専門力」「提言力」の

私は今、1970〜80年代の政治について勉強しています。当時のソビエト連邦のゴルバチョフ大統領は「日本は、一億総中流」により、最も成功した社会主義国家である」としてしています。今から30〜40年前の日本では、誰もが中流と答えていました。

※実践発表「福祉課題の変化に応じた社会福祉協議会事業の展開」既存事業と新たな事業の取組みから」は、8月号で紹介いたします。